

農産FAX情報 第7号

令和6年8月15日
ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

○雑草対策

- ・生育期間中にマツヨイセンノウ・シバムギ等の多年生雑草が散見されました。本年作付け予定のほ場を確認し、耕起前の除草剤茎葉処理を検討しましょう。
- ・グリホサート系除草剤は多年生雑草が15 cm以上に再生した時期に散布しましょう。また、散布後の降雨や気温が低い気象条件では効果が劣ることがあるため、気象予報を確認し散布しましょう。

表1 多年生雑草の除草剤例

薬剤名	使用方法・使用時期	10aあたり使用量	使用回数
タッチダウンiQ	耕起3日以上前 (雑草生育期)	通常散布 500～750ml	1
		少水量散布 500～750ml (水量25～50 L)	
ラウンドアップ マックスロード	耕起前・雑草生育期	200～500ml	3

※周辺作物に飛散しないよう注意し、ドリフト低減ノズルを使用しましょう。

2 ばれいしょ

○夏疫病・疫病の防除

- ・気温が高い日が続いた影響で、夏疫病の発生が見られます。発生ほ場は治療効果のある剤・未発生ほ場は予防効果のある剤を使用しましょう。
- ・疫病菌による塊茎腐敗は気温17℃以下で多雨になると感染が助長されます。気象経過に合わせ、塊茎腐敗に効果のある薬剤を選択しましょう。

○茎葉枯凋処理剤使用の注意点

- ・接触剤のため、茎葉に薬剤をまんべんなく散布しましょう。
- ・散布適期は茎葉黄変始め～収穫3日前までで、処理後2～3時間以内に降雨が予想される場合は使用を避けましょう。
- ・土壌が極端に乾燥している場合は、維管束褐変を生じやすいため使用を避けましょう。

○リーフチョッパーによる作業の注意点

- ・刈り損じや刈り過ぎは塊茎腐敗・緑化の原因となるため、機械を調整しましょう。
- ・収穫の日安は処理後 10 日目以降です。試し掘りを行い塊茎表皮を確認しましょう。

表 2 疫病・塊茎腐敗・夏疫病の防除例

薬剤名	系統名	希釈倍率 (倍)	疫病	塊茎 腐敗	夏疫病	効果 の発現	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)
グリーンダイセンM水和剤	ジチカ-バメート	400	○		○	予防	10回	7日前まで
ランマンフロアブル	QiI	1,000~ 2,000	○			予防	4回	7日前まで
		1500		○				
リライアブルフロアブル	ハンス・アミド ・カーバメート	800~ 1,000	○	○		予防 治療	3回	7日前まで
ホライズンドライフロアブル	シアネトアミド-ホリム ・QoI	1,500	○		○	予防 治療	4回	14日前まで
プロポーズ顆粒水和剤	CAA ・カニトリル	750~ 1,000	○	○		予防 治療	5回	7日前まで
		1,000			○			

3 てんさい

○ヨトウガ・シロオビノメイガの防除

- ・北海道防除所の 8 月予報ではヨトウガの発生期・発生量は「並」となっております。
例年 8 月下旬ごろからヨトウガの第二世代幼虫・シロオビノメイガが発生し始めるため、ほ場観察を行い発生に注意しましょう。

○褐斑病について

- ・昨年はお盆以降に褐斑病の発生が拡大しました。本年も高温・多湿条件が続くことが予想されるため、「防除間隔を 10 日以下にする」「散布水量を増やす」など対策を強化しましょう。

4 豆類

○菌核病、灰色かび病の防除

- ・着莢期に入り、多湿条件が続いています。菌核病・灰色かび病の発生が懸念されるため、予防防除に努めましょう。

◎農薬・枯凋剤のドリフトに注意！

◎適度な休憩と塩分・水分補給で熱中症対策！！

◎農薬を適正に使用し、作業履歴は忘れず記帳！！！！